

簡易版ティーチング・ポートフォリオ 2022年度

幼児保育学科
専攻科福祉専攻
杉田由佳理

1. 教育の責任

私は、青森中央短期大学幼児保育学科の専攻科福祉専攻において、こころとからだのしくみ領域5科目と、医療的ケア領域1科目を担当している。また、幼児保育学科において、子どもの保健・健康分野2科目を担当し、介護福祉士と保育士の国家資格取得者養成に携わっている。両者とも、対象者の医学的・心理的側面と生涯発達の視点から、医療の基礎知識を踏まえて福祉の専門知識を構築する教育を展開している。

担当科目は以下の通りである。

専攻科福祉専攻：「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」

幼児保育学科：「子どもの保健」「子どもの健康と安全」

2. 教育の理念

学生には、専門的職業により経済的基盤を固め、更なる専門性を獲得できるよう学ぶ楽しさを知り、必要な情報をキャッチできる能力を養ってほしいと考えている。国家資格取得は自らの価値であり、よりよい人生のために活かすことが出来る。しかし、人生は考えている以上に長く様々な困難もある。学生時代の学びも色褪せてくる時が来るかもしれない。そんな時に更なるキャリアアップに向かってほしい。

青森中央短期大学の教育理念は、「価値観の多様性を理解する『豊かな人間性』と自立して生きていくために必要な『実学』を身につけること」である。実学とは、習った知識が直接、社会生活に役立つ学問である。過去から学び、自分で考え、判断し、実践してみることである。メディアやネットの情報に踊らされず、自分で判断できる材料の知識を得る方法を体得した対人援助者を育てたいと考えている。

3. 教育の方法

1) 専攻科福祉専攻

(1) 発達と老化の理解

ライフサイクル各期における発達課題や特徴的な疾病がもたらす生活への影響を、身体的、精神的、社会的側面から捉え、その対応について必要な知識が得られるよう講義する。

実際の例を示しながら、人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、介護福祉専門職としてよりよい援助の視点を身につけさせる。乳幼児期の発達課題については、幼児保育学科での学びを想起させる授業展開にする。

(2) 認知症の理解

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や、意思表示が困難な特性を学習できるよう講義する。認知症に関する事例の DVD や映画等の視聴から、本人の思いや個性に応じた支援や、家族や地域を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を身につけさせる。また、授業 1 コマを認知症サポーター養成研修に当て、青森市の認知症サポーターの資格を取得させる。

(3) 障害の理解

講義と視聴覚教材により、障害のある人の心理や、身体機能に関する基礎的知識を習得させる。その上で、障害のある人の体験を理解し、障害者のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を身につけさせる。

(4) ことろとからだのしくみ

講義と演習により、介護技術の根拠となる人体の構造や機能、及び、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について学習させる。その上で、身じたく、移動、食事、入浴などの生活活動別に、介護実践の医学的根拠を理解させる。

(5) 医療的ケア

講義により、介護福祉士の業務である医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）の内容、及び、医療的ケアが業務に追加されることになった法律改正の主旨と内容を学習させる。また、医療提供の基本的な考え方や、リスクマネジメントを基盤とする安全な介護を身につけさせる。その上で、モデル人形を用いた実技演習を繰り返し行い、技術習得に努める。

2) 幼児保育学科

(1) 子どもの保健

講義により、保育者が子どもの健康や安全を守り、子どもと保護者を支援するための基本的な知識を理解させる。子どもの身体発育、心身の健康を中心に、子どもの健康や安全を守り、心身ともに健やかに育てること、また、子どもに自分の健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育ませる指針について学修させる。

(2) 子どもの健康と安全

保育施設における健康と安全の対策規範となるガイドラインを踏まえ、保育施設における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策、また子どもの体調不良等に対する適切な対応、感染症対策等について具体的に理解できるよう講義する。また、モデル人形を用いた応急処置の実技演習や、事故の実例に関する調べ学習を行い、子どもの健康と安全を守る具体的な活動内容を体得させる。

4. 教育の成果

1) 専攻科福祉専攻

定期試験は、国家試験の問題を意識して作成おり、合格率 100%という結果から知識習得については成果が得られていると言える。介護実習では、対象者の身体・心理的側面を的確にとらえ、人体の機能や構造を根拠とした介護技術を実践しており、医療的な知識を介護過程に役立てていることが確認できた。

2) 幼児保育学科

授業評価アンケートでは、「子どもの感染症や虐待について学ぶことができた」の記述があり、保育者として医療的な知識に関心が持てるようになったと考えている。一方で、授業を意欲的に受けることができたかの質問で1名が「いいえ」、授業内容を理解できたかの質問で1名が「あまりそうと言えない」と回答しており、授業の途中途中で進みに着いて来ていない学生の把握に努める必要性を感じている。